

2013／第97回 日本選手権 Statistics Information

20130608＝No. 21

<男子／100m／年少者の優勝&世界選手権代表について>

・桐生祥秀（洛南高3年／1995年12月15日生）が優勝した場合、この種目での新制高校の高校生の優勝は史上初となる。

・男子100mでの新制高校の生徒の入賞は下記の通り。

1950	6)	記録不明	清藤 亨	(九州学院高	・熊本)
1957	5)	11.0	蒲田 勝	(田辺高	2 和歌山)
1958	2)	11.0	蒲田 勝	(田辺高	3 和歌山)
1961	5)	11.3	島田 茂明	(金沢泉ヶ丘高	・石川)
1962	3)	10.7	飯島 秀雄	(目黒高	・東京)
1963	5)	10.8	1.0 石川 準司	(浜松西高	3 静岡)
1965	4)	10.9	土江 良吉	(出雲商高	・島根)
1966	2)	10.7	熊谷 真	(磐田南高	・静岡)
1969	5)	11.0	0.2 石沢 隆夫	(国府台高	3 千葉)
1970	2)	11.1	-1.7 新井真智雄	(国学院栃木高	・栃木)
1982	6)	10.84	1.2 米内 聡	(青森南高	3 青森)
1986	3)	10.69	-0.9 名倉 雅弥	(坂戸西高	2 埼玉)
1987	4)	10.73	-1.2 名倉 雅弥	(坂戸西高	2 埼玉)
1987	3)	10.73	-1.2 中道 貴之	(木本高	3 三重)
1990	5)	10.62	0.0 佐藤 寛員	(和歌山北高	・和歌山)
1997	7)	10.66	-0.8 小島 茂之	(市船橋高	3 千葉)
2000	7)	10.68	-0.7 上野 政英	(野々市明倫高	2 石川)
2006	8)	10.55	-0.3 荒尾 将吾	(小倉工高	3 福岡)
2011	8)	10.60	-0.5 北村 拓也	(広島皆実高	3 広島)

・上記の通り、新制の生徒では、2位が最高順位。

・戦前の選手で現在の高校生に相当する年齢では、1936年（第23回）に、韓国在住の金裕沢（培材高普）が勝っている。金は、1918年生まれ（月日は不明）で、当時は17歳か18歳だったので、現在の高校3年生にあたる年齢。

・それ以前では、旧制・暁星中学の高木正征（1904年5月17日生まれ）が、1921年11月19・20日（第9回）に勝っている。この時、高木は17歳6カ月と2日目か3日目。

・モスクワ世界選手権の代表選手選考の規定からすると日本陸連の派遣設定記録（10秒01）をクリアしている桐生は、完走すれば代表に内定となる。過去の世界選手権に男子の高校生で出場（実際に出場）したのは、1999年・1500m・佐藤清晴（佐久長聖高3長野／予選落ち）、1987年・400mR（3走）・名倉雅弥（坂戸西高3埼玉／準決勝5着＝落選）、2005年・1600mR（1走）・金丸祐三（大阪高3大阪／予選で失格＝DQ）。よって、桐生が個人種目（100m）に出場すれば個人種目では佐藤について男子高校生では史上2人目となる。